

# 平成30年度予算

昨年度までに引き続き、4つの柱(高齢者の安気づくり、子育て世代の安心づくり、地域・経済の元気づくり、まちの安全づくり)に取り組みます。

問合せ先 財政課

ロータリーや雨よけなど、駅前広場を整備し、市の玄関口にふさわしい空間を整備します。

市のシンボルロードとして、駅前と県道64号線(可児金山線)を東西に結ぶ道路の全面開通を目指し、用地取得と工事を進めます。

子育て健康プラザ・マーノには、クッキングスタジオや健康スタジオが入り、食育教室、お弁当づくり教室、マタニティー向け運動教室などを開催します。詳しくは、2・3ページをご覧ください。



可児駅周辺図

歳入では法人市民税などの減少が予想されることから、市税の減少を見込んでいます。また、市債は子育て健康プラザの完成などにより減少しますが、引き続き市債を利用して道路改良や土田渡多目的広場整備などの事業を進めます。繰入金は、財政調整基金の繰入金が増加しています。



岐阜医療科学大学の新キャンパス(イメージ)

虹ヶ丘に新キャンパスを開設する岐阜医療科学大学の薬学部新設補助に18億円を計上しています。地域医療を支える人材の輩出に期待がかかります。



公民館が地区センターに変わります

他にも、日曜・祝日の試験運行を行った「コミュニティバス」(Kタク・Kバス)が、4月から本格運行を開始します。皆さんの外出の楽しみにつなげていきます。

4月から市内の全14公民館が地区センターに変わり、住民自身が高齢者のサポート、防災、子育て支援などの地域の課題の解決を目指す拠点になります。これに伴い、広見地区でモデル事業を始めます。



キッズクラブの様子

歳出では、子育て健康プラザ・マーノで子育て支援や市民の健康づくりに取り組む他、駅周辺の整備を進めます(最上段の記事を参照)。

他の事業では、児童数が増えている今渡南小学校の敷地にキッズクラブを新築し、利用定員を増やします。他にもめぐみ保育園の増築・改修を進め、3歳以上の園児を中心に受け入れを増やします。

新年度予算では、一般会計326億8千万円、特別会計と上下水道の企業会計を合わせた総額は602億1530万円になりました。前年度当初予算に比べて一般会計は2.3%、総額では3%減少しました。

## 一般会計

# 326億8,000万円

(カッコ内は昨年度予算との差額、△はマイナス)

今年度の予算はこちら



可児市ふるさと広報大使 塚本明里さん

### 特別会計

区分	金額
国民健康保険事業	107億3,850万円
後期高齢者医療	12億2,800万円
介護保険	68億7,460万円
自家用工業用水道事業	1億5,850万円
農業集落排水事業	1億7,900万円
可児駅東土地区画整理事業	2億7,750万円
財産区(5地区の計)	2,520万円
合計	194億8,130万円

### 企業会計

区分	金額
水道事業	31億8,400万円
下水道事業	48億7,000万円
合計	80億5,400万円

